



熊谷市立大麻生中学校

校長 貫井 清賢

一 本校の沿革

本校は、終戦直後の昭和二十二年「食うことに事欠くこの時期に」「こういう時こそ、教育に力をそそがなければならぬ」「小さくとも独立の、立派な人づくりのできる熊谷の『松下村塾』を」という先人の思いが詰まった中で開校に至る。学校敷地は田畑に囲まれた田園地帯である。昭和二十二年に大麻生小学校南校舎に併設開校以来、令和六年度は七十八年目にあたると。児童数は開校時、二百五人でスタートし、昭和五十七年の二百八十人をピークに、令和六年度は百四十五人と減少を続けている。現在の学級数は普通学級六学級、特別支援学級三学級の計九学級である。県費負担教員は二十名、市費職員等を含め三十六名の教職員である。

二 校章・校歌制定に係るエピソード

1 校章麻の葉文様は日本独自の文様で、正六角形を基本とした幾何学文様です。名前の由来は文字通り、「麻」の葉の形を連想する事から名づけられました。(麻の葉文様の正六角形から、大麻生をイメージしたと思われる)

古くは平安時代の仏像の切金文様のなかや、鎌倉・室町時代の繡仏(刺繍によって仏像や菩薩などをあらわしたもの)のなかにみられます。また、麻は丈夫ですくすくとまっすぐに伸びることから、子供の産着に用いる風習があった。着物に限らず帯や襦袢、袋小物に頻繁に用いられました。(親や地域の願い・思いが校章に込められているようである)

2 校歌 昭和三十六年三月一日に制定

作詞 宮澤章二 作曲 平井康三郎

大麻生中学校校歌の作詞は「行為の意味」でお馴染みの宮沢章二先生、作曲は多くの歌を作曲・編曲した二十世紀の日本を代表する作曲家。童謡「とんぼのめがね」や文部省唱歌「スキー」なども作曲しています。

大麻生中学校々歌

宮沢 章二 作詞
平井 康三郎 作曲

カフコくあからく (♩=約108)

(一) ひまわり とうもろこし ぶどう ぶどう ぶどう
 (二) ひまわり とうもろこし ぶどう ぶどう ぶどう
 (三) ひまわり とうもろこし ぶどう ぶどう ぶどう

おうす るべの んあつ とかた せねく ー ー ー ののこ すもゆ ー ー ー かねえ ー ー ー にはて
 ちしあ かりす らつらつ りあふん わどろ ぶのを よみも ちちと ここのめ ますく わしみ れんご ののの

- Feb. 1961 -

大麻生中学校校歌
作詞 宮沢 章二
作曲 平井 康三郎

一
ひとみ明るく集い来て
花の歌ごえ春と秋
かおる三年を健やかに
力合わせるよろこびよ
われらの熊谷大麻生

二
北の朝空山なみに
学ぶ気高き雪のいろ
夕あかねの秩父嶺は
自立不動の道照らす
進取の風あり大麻生

三
広野ひとすじ荒川を
満たす流れの水清く
父祖の伝統に夢そえて
明日の実りを求め行く
緑のふるさと大麻生